

新日本海フェリー株式会社 北海道小樽港と京都府舞鶴港を結ぶ「けやき」
昨秋デビューの「けやき」に舞鶴港から乗船訪船

爽やかな初夏の風を感じる 5 月 31 日、京都府舞鶴市の舞鶴フェリーターミナルから、新日本海フェリー株式会社の昨年 11 月に就航した「けやき」に組合執行部が訪船し、船橋や機関室などを見学した。「けやき」は全長が 199m、総トン数は 1 万 4157 トン、旅客定員は 286 名で、航海速力が 28・3 ノット。車両積載台数はトラック 150 台・乗用車 30 台で、舞鶴港と小樽港を約 21 時間で結ぶ。（南行きは約 21 時間 45 分）乗船訪船したのは、組合本部からは田中伸一組合長代行と平岡英彦国内局長、そして会社を担当する大阪支部の小林泰之大阪支部長と森健輔新日本海フェリー職場委員で、舞鶴港を 23 時 50 分に出港し、航海中の船橋や機関室を見学し、現場組合員の皆さんと意見交換を行った。

出港時の作業を見学

「けやき」に乗船後、はじめに作田和久船長にあいさつし、舞鶴港では出港時の作業のようすを見学させていただいた。船が岸壁を離れ舞鶴港外に出るまでは、停泊中の船や航行する漁船などに注意を払いながら、慎重に針路を指示する船長の姿に、旅客の生命を預かり、船の安全運航第一という責任感の重さが伝わってくる。乗船訪船したメンバーが見学を終え、船が港外に出ると、波静かな日本海で一路小樽港へ針路をとった。

航海は舞鶴港を 23 時 50 分に出港し、小樽港に翌日の 20 時 45 分に入港するもので、約 21 時間の航海中に、旅客の疲れを癒すための浴場や露天風呂、映画やプロジェクトマッピングを楽しめるスクリーンルーム、船首部の 2 層吹き抜けで開放的なフォワードサロンが利用できるなど、長時間の船旅を楽しめる豪華客船のような雰囲気を満喫できる。

航海中は爽やかな風を浴びるデッキで、大海原の風景を眺める乗船客も多く、お昼過ぎには北海道の奥尻島を眺めることができ、夕方には積丹半島の神威岬から積丹岬の雄大な大自然を望むことができる。この神威岬に神威岬灯台があり、船舶の航行の安全を見守っている。

「海員だより」